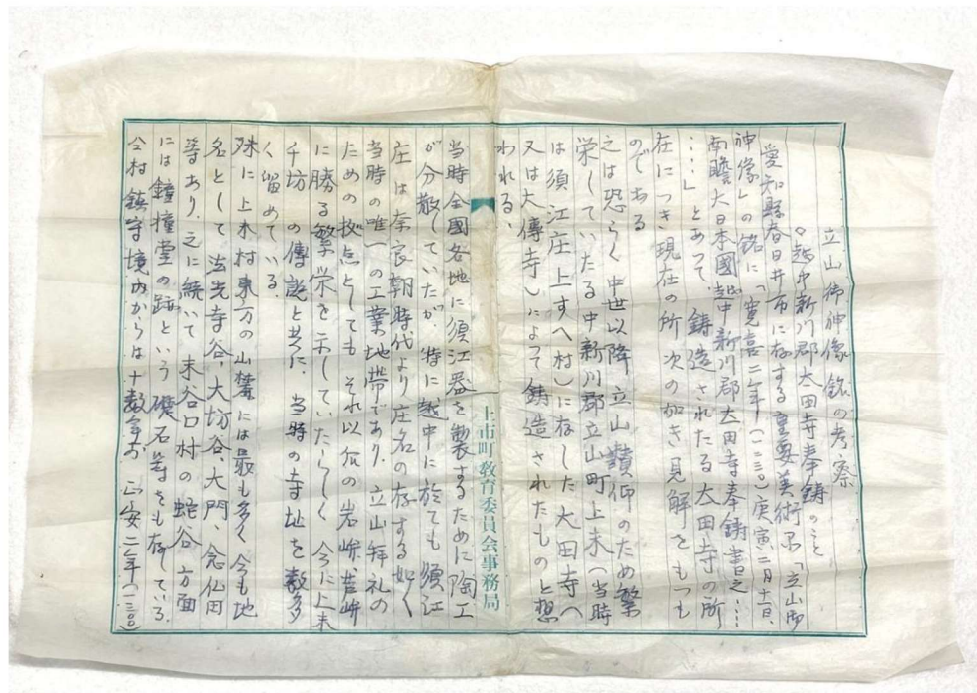


立山町歴史交流ステーション日なた 研究紀要

第3号



石原与作未公表原稿

2025 年

立山町歴史交流ステーション 日なた

はじめに

立山町歴史交流ステーション 日なたは、令和3年4月1日にオープンした歴史民俗資料館です。

立山町郷土資料館（平成7年～平成19年、立山町五百石）、立山町埋蔵文化財センター（平成19年～令和元年、立山町谷口）と変遷を重ね、立山町日中上野の旧日中上野保育所を改修して資料館となりました。

町内からの出土品・民具の展示のほか、古代体験等を通じ、地域資源を活用した交流促進を図ることを目的とした施設です。

学芸員を配置し、展示・活用事業を行うとともに、これに関連した研究も推進しています。

特に町指定文化財などの調査研究は、科学的な分析研究や調査技術の進展により、見直しが迫られ、また将来にわたる保存継承が課題となっています。

当館では、学芸員が中心となって上記の調査研究に取り組んでいます。

本書は、立山町に関連した文化財等の調査研究成果について掲載しております。

令和7年4月

立山町歴史交流ステーション 日なた

目次

福岡作光「越中瀬戸焼に就て一言原稿」からみた越中瀬戸焼の復興	廣田雄介	1
立山町金剛新の石仏たち	平井一雄（北陸石仏の会）	7
富山県における高地性集落の新資料 —立山町史収集資料から—	古川知明（当館学芸員）	21
立山町池田笹尾谷遺跡（仮称）について —旧立山道沿いの古代遺跡—	古川知明	35
石原与作未公表遺稿「立山御神像銘の考察」の紹介 —長島勝正遺品から—	古川知明	46
『立山町史』編纂にみる越中瀬戸焼 —編さん主任女川米次郎の記録から—	古川知明	59
Abstract		63

立山町金剛新の石仏たち

平井 一雄

(北陸石仏の会)

はじめに

平成 22 年 9 月 15 日発行の『北陸石仏の会々報第 37 号』に「富山県立山町金剛新の善光寺如来」を報告してから 13 年経った。

それ以来、金剛新集落の石造物を探訪しているうちに、露天の石仏の他にもたくさんの祠堂に納められた石仏を拝観してきた。今回それらをまとめて報告する。

1 金剛新(旧下金剛寺新)について (資料 1)

金剛新は金剛寺、下金剛寺の北方に位置する。下金剛寺の出村であろう。栃津川が集落内を流れている。

金剛寺・下金剛寺は栃津川(若狭川)の沿岸にあって、当町では比較的早くから開拓された地帯である。

正保 3 年(1646)の高付帳には上、下金剛寺の名がある。寛文 10 年(1670)の草高は上金剛寺が 246 石、下金剛寺が 349 石で、免は上、下金剛寺とも四ッ八歩であった。もと上、下金剛寺の間に金剛寺が建立されていたと伝えられ、南方を上金剛寺、北方を下金剛寺と名づけたという。

この金剛寺は、1640 年代に現富山市に移転し光厳寺と改称したといわれる。(これは疑わしいという説もある。)

2 『立山町の石造物第一集～第七集』(資料 2)

立山町教育委員会と立山町婦人ボランティア養成講座会員の皆さんが立山町の石造物を悉皆調査された。京田良志先生が監修され、第一集は平成元年 3 月に発刊され、最終号第七集は平成 8 年に発刊された。

私は金剛新探訪時は第一集～第六集までしか持っておらず「金剛新」は未調査かと考えていた。

令和 6 年 5 月に立山町歴史交流ステーション日なたより「第七集」も発刊されているとご教示を戴き、さらに『立山町の石造物第七集』も提供していただいた。

「第七集」は高野地区、日中上野地区の石造物が報告されている。

高野地区に金剛新の石造物が記載されていた。

金剛新の石造物をみると

H 7、H 8 は石臼を台座にしている地藏と聖観音石像である。

H10～H14 は渡辺まつ子家前にある石仏群六像のうちの五像である。

H15 は渡辺まつ子家右側にある自然石半割円形傘石を頭上に戴く「聖観音」石仏である。

H9 は如意輪観音石仏であるがこの場所を探したが移転されたのか探し出せなかった。

以上は露天の石造物ばかりで祠堂に入っているものは報告されていない。

平成 5 年 3 月に『大山町の石仏第二集路傍の石仏(大庄・福沢地区)』が発刊されている。京田良志先生が「大山町の石仏に惟う」という記事を書かれている。

”大山町の石仏”について語るのはちょっと早いように思う。調査はようやく路傍を終えたが、あと寺社域・墓域・それに個人の宅地内などが残されている。これらの未調査地域の石像数はそれに拮抗するか、あるいは超えるかも知れないのである。・・・」と書かれていることから、立山町金剛新でも個人宅の祠堂・寺域(桂林寺)の祠堂も未調査になったのだろうか。

3 金剛新南部「渡辺吉弘家」の祠堂（資料3）

「渡辺吉弘家」の左側にある祠堂は渡辺家の屋敷仏祠堂と考える。

令和6年7月に写真を撮っていると、通りがかった軽トラから降りてこられ、声を掛けられた男性が当主の渡辺吉弘さんだった。このお地蔵さんはうちの先祖の供養仏で不動明王もあるはずだといわれた。不動明王以外はお地蔵さんという認識らしい。

ついでに右方にあったはずの祠堂について聞いてみると、隣にも渡辺姓の家があって、その家の地蔵さんだったが、大分前に屋敷地を売って他の地方に行ってしまった。今は別人の敷地になっている。

地蔵堂は昨年、西の方の墓地へ移したと言われた。

祠堂には9体の石仏が収まっている。

上段、左から聖観音・准胝観音・如意輪観音・不動明王

中段 左から虚空蔵菩薩・勢至菩薩

下段 左から聖観音・二臂千手観音・如意輪観音台座・地蔵菩薩

二臂千手観音は「北陸石仏の会々報第61号」「北陸石仏の会々報第69号」に報告した二臂千手観音摸刻像と考える。

要約は以下のとおり。

「西国三十三所観音礼所第十番三室戸寺の御本尊は二臂の観音菩薩と称する一尺二寸の飛鳥金銅仏とされ、秘仏となつている。二臂の尊像は靈容出現時の千手観音像、また焼失した白檀木御長二丈の千手観音像の尊名を称したのではなかろうか。また墓標とするときの費用を考えると八臂など多臂とするより二臂のほうが石工への支出が少ないからではなかろうか。」

4 元渡辺家の祠堂（資料4）

渡辺吉弘家の北隣敷地、右側にあった木造祠堂に一石善光寺三尊像と地蔵3体。

一石善光寺三尊像については、『北陸石仏の会々報第37号』平成22年9月15日発行「富山県立山町金剛新の善光寺如来 平井一雄」を資料4に再掲する。

新祠堂は元渡辺家の西側、総墓前のコンクリート祠堂に一行に並べて安置されている。

5 金剛新 渡辺まつ子家前祠堂と周辺石仏（資料5・6）

金剛新中央の渡辺まつ子家前祠堂には「・准胝観音・弘法大師」石像が祀られている。

ちょうど聖観音石像周辺の草刈をしておられた渡辺まつ子さんにお聞きすることができた。

このお堂の由来は私が五百石近くの集落から嫁いできた嫁であり、何も聞いていない。うちのお寺さんは芦峯寺にあった天台宗の立山寺で今は富山の円隆寺から来られる。この辺の渡辺家は皆、禅宗の桂林寺の檀家なのに、何故うちだけ天台宗なのか、わからないといわれた。

渡辺家北側の聖観音石仏は自然石の台座、円形切り石凹面に右手、說法印、左手に開敷蓮華を持つ。頭上は阿弥陀の化仏宝冠を冠る聖観音を浮彫にしている。下部に雲流文七つ。円の周りに梵字がいくつか読み取れるが摩耗で全体は読み取れない。傘は自然石の半割を乗せている。裏面、側面に記銘は無い。

【参考】『新纂佛像圖鑑』如意輪観音菩薩より

「如意輪陀羅尼經に曰く「内院の當心に卅二葉の開敷蓮華を書き、華臺の上に於て如意輪觀自在菩薩を書く、西に面して結跏趺坐し、顔貌熙怡にして身金色の相なり、首に寶冠を戴き冠に化佛あり、菩薩左手に開敷蓮華を執り、その臺上に當りて如意寶珠を書き、右手は說法印に作る。天の諸々の衣服、珠璫、環釧、七寶の寶瓔珞もて種々に莊嚴し、身衆光を放つ」

と記載されている。図像は如意輪菩薩とされているが聖観音の三界万霊供養塔として建立されたと考
える。渡辺まつ子さんはこの仏さんは馬頭観音だといわれた。昔は、ここにもっと大きい川が流れてい
て、作馬の足を洗っていた時代があり、そのため馬頭観音が祀られたのだろうと言われた。

渡辺まつ子家右の四つ辻道南側に、北面を向く6体の石像がある。左から右に向かって①自然石刻字
不明、②法性地蔵、③金剛童子、④普賢菩薩、⑤如意輪観音、⑥寶性地蔵と私は図像集等から見て認定
した。

『立山町の石造物第七集』金剛新地区には、①記載なし、②地蔵、③如意輪観音、④聖観音、⑤如意
輪観音、⑥地蔵としている。『立山町史下巻』は渚上の石仏群として写真を載せている。住宅地図もこ
こは渚上との境になっているが渡辺吉弘さん、渡辺まつ子さんはここは金剛新だといわれた。

またこの石仏たちは昔、ここより東南にあった火葬場がなくなり、そこからここへもってきたものだ
と言われた。

③金剛童子は、後述する渡辺紘一家の十二仏堂に同様な像容の石像があり、金剛新の金剛童子左足は
表を見せているが、十二仏堂の金剛童子は足裏を見せている。図像の金剛童子は右足を上げて足裏を見
せており、左足は地につけて表を見せている。両方で1体の金剛童子を現しているのだろうか。

馬頭観音の図像には三面馬頭と言われる座像の図像があり、右足は表、左足は足裏を見せている。ま
た金剛童子や蔵王権現のような片足を上げて踏ん張っているような図像もある。

後述する十二仏堂にある金剛童子とあわせて七観音の内の一つ馬頭観音も表現しているのではない
だろうか。

6 金剛新「桂林寺」南側 二祠堂（資料7）

「桂林寺」南側に二つの木造祠堂がある。

左祠堂には25体の石仏と「三界万霊」と刻された四方体の台座石がある。

紀年銘入りの石仏は享和元年（1801）銘の地蔵があり、天保5年（1834）銘の三界万霊がある。

右祠堂には8体の石仏と5体の台座石がある。

左祠堂にはこの地域には見られない三面の「三宝荒神」がある。

庚申塔かも知れないが信仰が続いていないので不明である。

これらの石造物について渡辺吉弘さんはすべて持ち主があると言われた。

ある時代に、それまで個々の家の屋敷内にあった墓所を共同墓地に移設した時に、持っていけなかつ
た石仏たちとその台座をこの二祠堂に祀られたのではなかろうか。

7 桂林寺（資料8）

『立山町史』下巻 昭和59年2月発行 には以下の記載がある。

桂林寺（旧金剛庵） 曹洞宗（尼寺）

所在地 金剛新字稲葉一番地

本尊 釈迦如来

元住職 渡辺覚順

由緒 万延元年（1860）頃、同地出身の渡辺澄水が開基となった。

入口祠堂の石仏 右 准胝漢音 左 十一面観音

境内に渡辺八郎顕彰碑があった。今は台座だけ残しているが碑文を刻した石塔は無くなっている。古
川知明先生は令和6年元日の能登半島地震により倒壊したのではなかろうかといわれた。再建されるか
どうかはわからない。

8 渡辺紘一家の十二仏堂（資料9）

金剛新「桂林寺」左側を通る県道166号線「金剛新」バス停前の渡辺紘一家右角に仮称「十二仏堂」がある。

桂林寺前の幅家主婦の方に聞くと「十二仏堂」の石仏を含めて、この辺りにある石仏さんはすべて地藏さまですと言われた。

十二仏堂内の石仏は像容から見て尊名は、左上から「如意輪観音」「准胝観音」「十一面観音」「薬師如来」「地藏菩薩」「不空罽索観音」「普賢菩薩」「不動明王」「虚空蔵菩薩」「金剛童子」「聖観音菩薩」「弥勒菩薩」と判断した。

この中で「不空罽索観音」は三面で、一見して三面馬頭観音のように見えるが、馬頭面が刻されていないので三面の不空罽索観音像と判断した。

最後の「弥勒菩薩」は阿弥陀の化仏が頭上にあり思惟像であり一見、如意輪観音とも思えるがはっきりした如意輪観音が左上、一番にあるので「弥勒菩薩」と判断した。

六観音、七観音と言われる絵像や石仏がある。

真言系では千手観音、聖観音、十一面観音、如意輪観音、准胝観音、馬頭観音の六観音である。天台系では千手観音、聖観音、十一面観音、如意輪観音、不空罽索観音、馬頭観音とする。慈悲衆生利益の菩薩である。

これらは六道思想の発達に基因した結果の分類であろう。

准胝観音と不空罽索観音を配当し七観音とする場合もある。

十二仏堂では金剛童子を馬頭観音とすると七観音全て存在することになる。

この金剛童子とよく似た石像が桂林寺南方300mのところ、金剛新と湧上が交わる十字路、渡辺まつ子宅前に6体の石造物がある。左から摩耗して読めない文字碑、錫杖を左手に持つ地藏菩薩。金剛童子、普賢菩薩（推定）、如意輪観音、合掌地藏菩薩。ここの金剛童子は左足甲を見せて右手で持つ（資料6）。

十二仏堂の金剛童子は左足裏を見せて右手で持つ。渡辺まつ子家前の金剛童子との対のように見える。

渡辺まつ子家の右角に自然石半割を笠にして円形窪みに開敷蓮華を持つ聖観音座像を彫った石像がある。渡辺家の主婦の方が草むしりをしておられたので聞いてみると、ここは元はもっと大きな川が流れていて馬を洗ったところなので、この馬頭観音を祀っているのだと言われた。聖観音と馬頭観音が入れ替わったのではなかろうか。金剛童子石像が馬頭観音だったのではなかろうか。桂林寺、渡辺家「十二仏堂」の金剛童子（馬頭観音）と都合よくつじつまがあう。

馬頭観音図像では通常の三面馬頭と蔵王権現のような片足を揚げた憤怒像がある。馬頭面がついている。

【北陸石仏の会副会長 滝本やすしさんの解説】

金剛新の金剛童子は1面2臂像です。

金剛童子には1面2臂像(天台系)と1面4臂像(真言系)があり、4臂像のほうが一般的のようです。蔵王権現は、この金剛童子をモデルにアレンジされたものと考えられています。日本で生まれた神仏習合の諸尊は、既存の仏尊をアレンジしたものが多くいます。

【参考】『越中舊事記』より

○獅子ヶ端天狗在る所窟あり。愛染明王弘法大師護摩壇の跡、室堂左に山あり、三寶崩と云。昔飛驒の小萱江に北山石蔵と云者、性貪欲猛惡にて毎に物の命をとり、人を害す、遂に變じて鬼神となる。尖りたる牙を生ず。爰に隠る別山「金剛童子」遂ひ出ず。牙稜け口■て死す。其牙今に

あり。寶物とす。（以下略）

おわりに

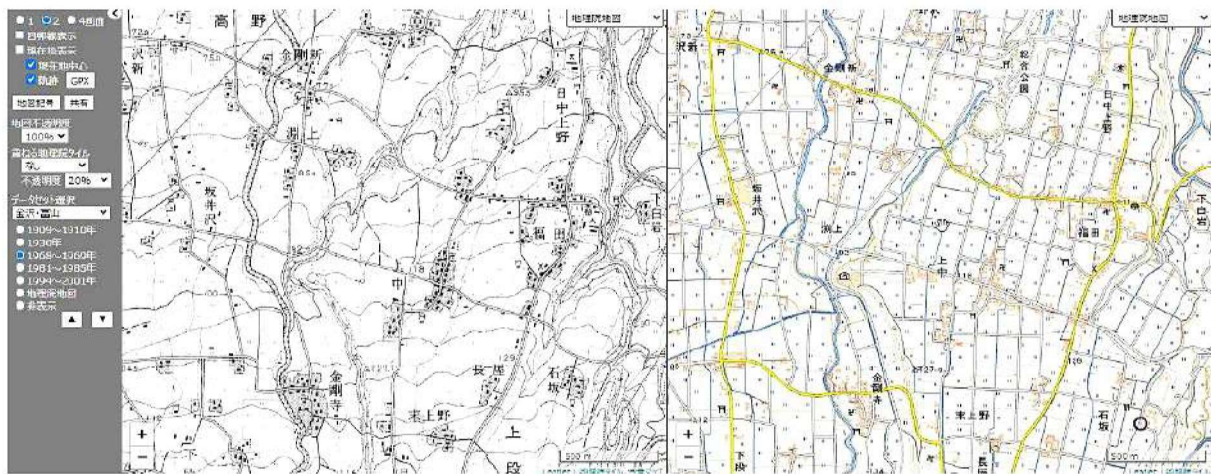
金剛新には、露天・祠堂含めて70体以上の石造物があった。

十二仏堂の12体は「十三仏」「誕生仏」「七観音」のほとんどが入っているように見える。渡辺吉弘家祠堂は不動、観音、地藏、虚空蔵が祀られ、元渡辺家祠堂には善光寺如来が祀られていた。渡辺まつ子家祠堂には准胝観音、弘法大師が祀られている。

先人たちの西国、四国、善光寺詣りの歴史を語っておられるような気がする。

露天の六体石仏群は旧火葬場の六地藏を想い、石臼上の二石仏は死者供養、道路安全祈願を担っておられる。二祠堂にある石仏たちも先祖たちの供養と現世利益の願いを今に伝えている。金剛童子をまつり「金剛新」の地名を子孫に永久に伝えたい思いからではなかろうか。

金剛新 地図・石造物・祠堂分布図



今昔MAPより

渡辺絃一家
十二仏堂7

桂林寺・渡辺八郎碑
・祠堂6

桂林寺南部
祠堂4, 5



渡辺吉弘家祠
堂1

元渡辺家
祠堂2

渡辺まつ子家
祠堂3 聖観音

渡辺まつ子家前
四つ辻石像群

立山町の石造物第七集

資料2

立山町の石造物 (第七集)



立山町教育委員会
立山町婦人ボランティア後援講座



不明



調査番号 H 15
種別 石仏
名称 如来坐像(坐)
所在地 立山町金剛寺
所見 自然石の上に安置され、自然石の形に依っている。

調査番号 H 14
種別 石仏
名称 如来坐像(坐)
所在地 立山町金剛寺



調査番号 H 13
種別 石仏
名称 如来坐像(坐)
所在地 立山町金剛寺



金剛新 渡辺吉弘家の屋敷仏祠堂 資料3



聖観音



准胝観音



如意輪観音



・不動明王・地藏菩薩

如意輪観音台座 二代目渡邊小三郎 建立



・虚空蔵菩薩 ・勢至菩薩



・聖観音・二臂千手観音



金剛新 元渡辺家の屋敷仏祠堂 資料4



・善光寺三尊 ・地蔵菩薩・地蔵菩薩・地蔵菩薩

2010(h22)7.12撮影移設前

北陸石仏の会々報 2010.9.15

富山県立山町金剛新の善光寺如来

平井一雄

富山県立山町の石仏を採訪して、金剛新の渡辺家の屋敷仏と思われる地蔵堂に善光寺如来石仏を確認した。

渡辺家の屋敷の南北に地蔵堂があり、北側の堂内に3体の地蔵石仏と同居しておられる。像高は65センチ、横幅56センチ、奥行き25センチの凝灰岩製である。

立山町金剛新は古くは下金剛寺新村といった。集落東部に万延元年(1860)渡辺澄水が開いたと伝える曹洞宗桂林寺(旧金剛庵)がある。この渡辺家とつながるのかもしれない。

善光寺式阿弥陀三尊とは善光寺の秘仏本尊を模したとされる。特色ある形式の阿弥陀三尊像が日本各地に分布し、彫刻史では「善光寺式阿弥陀三尊像」と称している。その特色は次のとおりである。中尊の阿弥陀如来、両脇侍の観音菩薩・勢至菩薩の3体とも立像である。

阿弥陀如来の印相は「刀印」といい、下げた左手の人差し指と中指を伸ばし、他の指を曲げる。両脇侍は胸前で両手の掌を水平にして重ねる「梵篋印」を結び、独特の宝冠をかぶっている。三尊全体の背後を大きな1枚の舟形光背がおおっている。

富山県立山町金剛新の善光寺如来

平成22年9月15日発行

富山県立山町金剛新の善光寺如来

平井一雄

富山県立山町の石仏を採訪して、金剛新の渡辺家の屋敷仏と思われる地蔵堂に善光寺如来石仏を確認した。

渡辺家の屋敷の南北に地蔵堂があり、北側の堂内に3体の地蔵石仏と同居しておられる。像高は65センチ、横幅56センチ、奥行き25センチの凝灰岩製である。

立山町金剛新は古くは下金剛寺新村といった。集落東部に万延元年(1860)渡辺澄水が開いたと伝える曹洞宗桂林寺(旧金剛庵)がある。この渡辺家とつながるのかもしれない。

善光寺式阿弥陀三尊とは善光寺の秘仏本尊を模したとされる。特色ある形式の阿弥陀三尊像が日本各地に分布し、彫刻史では「善光寺式阿弥陀三尊像」と称している。その特色は次のとおりである。中尊の阿弥陀如来、両脇侍の観音菩薩・勢至菩薩の3体とも立像である。

阿弥陀如来の印相は「刀印」といい、下げた左手の人差し指と中指を伸ばし、他の指を曲げる。両脇侍は胸前で両手の掌を水平にして重ねる「梵篋印」を結び、独特の宝冠をかぶっている。三尊全体の背後を大きな1枚の舟形光背がおおっている。



2010.7.14 立山町金剛新 平井一雄撮影



2024年5月11日撮影 移設後
渡辺家総墓前 善光寺三尊・地蔵菩薩三体

渡辺まつ子家祠堂と周辺石仏

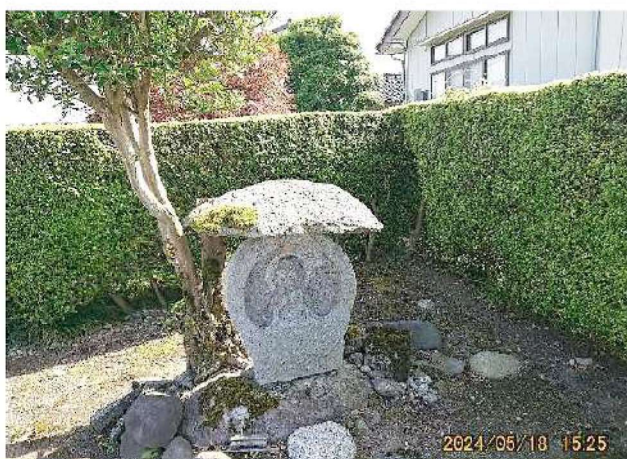
資料5



渡辺まつ子家屋敷仏祠堂



・准胝観音 ・弘法大師



渡辺まつ子家生垣横 聖観音石仏



旧火葬場にあった六体石仏 旧景



旧火葬場にあった六体石仏 整備後



河上の野仏群

『立山町史下巻』河上の野仏

金剛新 渡辺まち子家周辺 資料6



1.文字碑	2.法性地蔵	3.金剛童子	4.普賢菩薩	5.如意輪観音	6.寶性地蔵
-------	--------	--------	--------	---------	--------

文字
不明
碑



桂林寺 南側 二祠堂 資料7



千手観音	地蔵	地蔵	千手観音	千手観音
	地蔵	地蔵	聖観音	聖観音
地蔵	地蔵	聖観音	十一面観音	不空罽索観音
地蔵	不明	十一面観音	如意輪観音	地蔵
地蔵	地蔵	三界万霊	不動明王	地蔵
不動明王				地蔵

三宝荒神	馬頭観音		聖観音
	地蔵	十一面観音	
十一面観音	如意輪観音	台座	准胝観音
台座	台座	台座	台座
			台座



享和元年



天保五年
三界万霊
午 十月一、向



・三宝荒神 ・馬頭観音
、・地蔵菩薩

桂林寺（金剛庵）

資料8



桂林寺入口 祠堂



十一面観音 准胝観音

立山町金剛新 桂林寺境内 渡辺八郎顕彰碑

碑 ■ 徳 頌

下金剛寺新村有志建之 富山市石工 桑原亀太郎
 渡邊君八郎 越中 高野村人 選為 郡會議員 及村長 在職
 多年 能其 力 爲 民 謀 利 不 可 數 計
 便 乃 拮据 經營 遂 爲 道 川 銀 路 從 此 產 業 興 隆 戶 皆 溫
 村 民 深 德 之 若 又 當 日 勞 且 如 此 取 捨 報 恩 乎 宜 樹 石
 贈 金 以 酬 不朽 矣 余 文 乃 記 越 中 水 上 尚 渥 謹 書
 明 治 四 十 年 十 月



渡辺八郎顕彰碑がなくなった。



1. 如意輪観音



2. 准胝観音



3. 十一面観音



4. 薬師如来



5. 地蔵菩薩



6. 不空絹索観音



7. 普賢菩薩



8. 不動明王



9. 虚空蔵菩薩



10. 金剛童子
馬頭観音



11. 聖観音



12. 弥勒菩薩
阿弥陀如来
千手観音

ONLINE ISSN-2758-6367

立山町歴史交流ステーション日なた研究紀要

第3号

令和7年（2025）4月30日発行

編集・発行 立山町歴史交流ステーション日なた

〒930-3213

富山県中新川郡立山町日中上野83

☎ 076-462-2387

E-mail Tateyama-hinata@ma.net3-tv.net

HP https://www.town.tateyama.toyama.jp/kosodate_kyoiku/shogaigakushu_bunka_sports/bunka/5390.html



立山町日なた